

広報

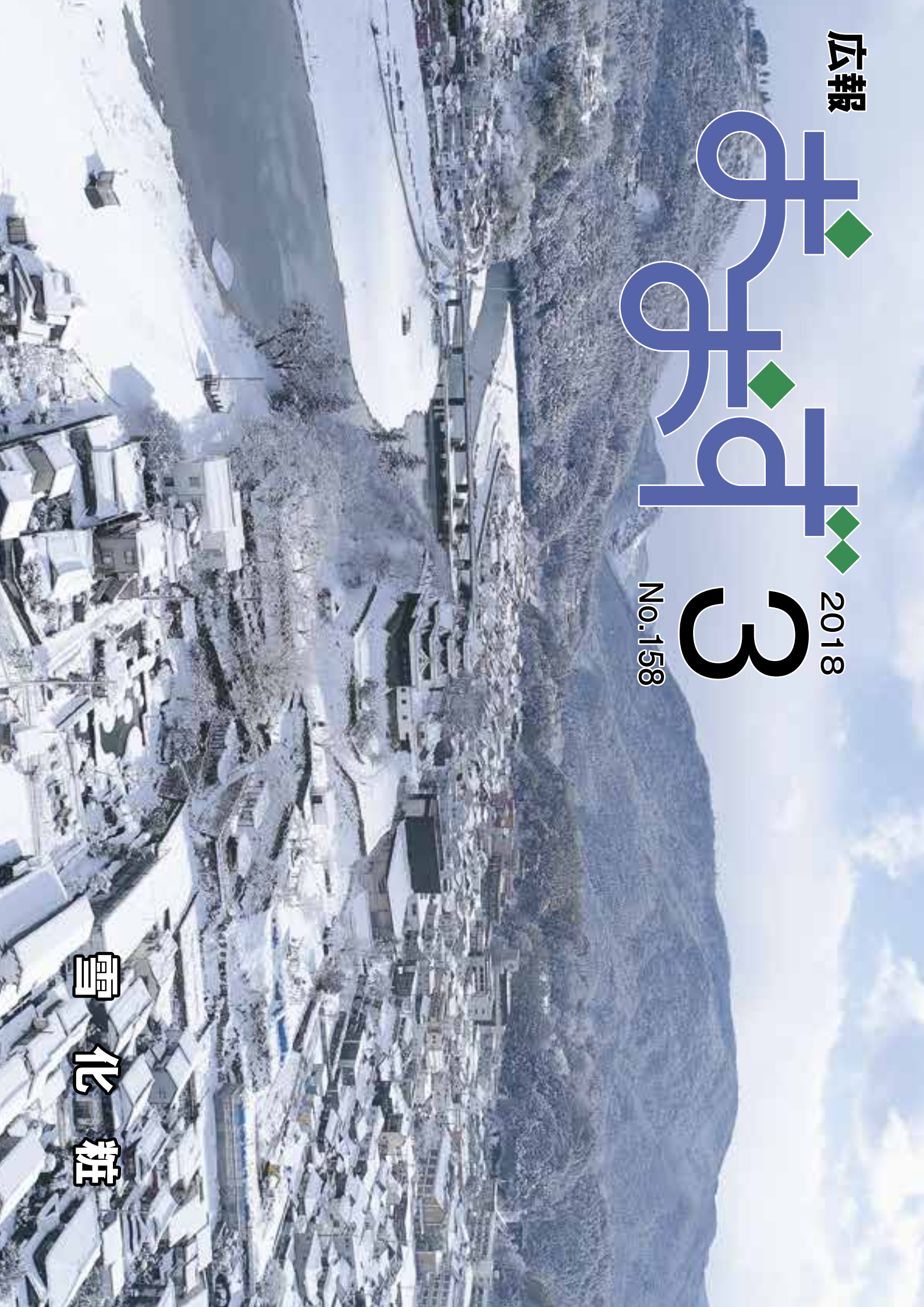
ふるさと

2018

3

No.158

雪化粧



がんばる大洲っ子

好きな言葉は「勇気」です

肱川小学校 6年
曾根 昂大 さん



僕は、習い事であるピアノを頑張っています。同じくピアノをしていた母に勧められたことがきっかけで、幼稚園のときから始めました。演奏している時が、僕にとっていちばん楽しいひとときです。現在は、週2回ほど、市内の教室に通ってピアノを学び、演奏会に向け練習に取り組んでいます。もっと上達できるように、中学生になっても続けたいです。

また、去年からはソフトテニス教室へ通い始めました。これまで大会などに出場することはなかったのですが、中学生になったらソフトテニス部に入り、大会に出場して入賞したいです。

将来の夢は、理学療法士です。看護に関する仕事をしたい。母を見て、僕も人のために働ける仕事に就きたいと思いました。そのためにも、誰に対しても優しく接して、勇気を持って何事にもチャレンジしていきたいと思っています。

3月の納税など 納期限は4月2日(月)です。

税 別	3月	4月	5月	6月
市 県 民 税				1期
固 定 資 産 税		1期		
軽 自 動 車 税			全期	
国 民 健 康 保 険 税	9期			

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人口	44,176人 (- 90)	件数 10件(5件)
男	21,100人 (- 50)	死者 0人(0人)
女	23,076人 (- 40)	負傷者 16人(5人)
世帯数	20,072世帯(- 35)	

(2018年1月末現在)

CONTENTS 目次

2ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3ページ～	(特集)“地域を元気に”僕たちが頑張っています
8ページ～	おおずニュース
10ページ～	シリーズ
11ページ～	おしらせピックアップ
20ページ～	情報ひろば
22ページ	集まれ0級若モン
23ページ～	図書館・利用者アンケートの結果
26ページ～	保健センター・各種相談ガイド
28ページ	がんばるひと (Minion Chou-Chou)

今月の表紙



1月12日(金)、強い寒気の影響で、南予地方を中心に雪が降り、市内は一面が銀世界となりました。肱川の河岸に望む大洲城も、今年初めての雪でお化粧となりました。

(特集)

“地域を元気に”僕たちが頑張っています

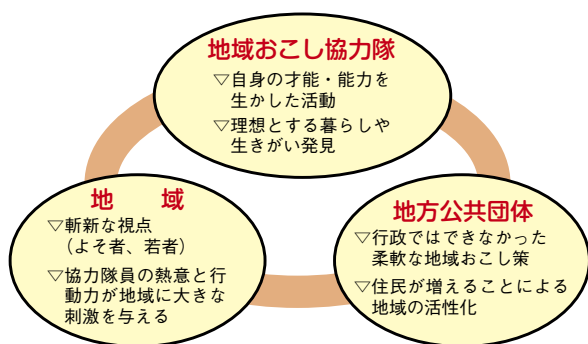
～大洲市地域おこし協力隊～



いのくち さとし
猪口 智史 さん

小泉 しんじ
信二 さん

井上 ようすけ
陽祐 さん



地域おこし協力隊とは

地域力の維持・強化を図るため、人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において都市住民を受け入れ、農林漁業の応援や住民の生活支援など各種地域協力活動に従事してもらいながら、受け入れ地域への定住・定着を図る制度です。

現在、市内では、3人の地域おこし協力隊が活動しています。

河辺地域では、地域団体「河辺の未来を考える会」と一緒に地域の活性化を図るための活動を行っています。また、長浜地域の戒川地区では、協力隊が地域住民と協同し、^{かしだに}榎谷棚田の保全活動を行っています。さらに、肱南エリアにある古民家の保全と利活用、訪日外国人の受け入れ体制整備を行うなど、市外・県外からやってきた協力隊員が地域のために活躍しています。

今回、それぞれの地域で活動している協力隊の取り組みなどについて紹介します。

小泉 信二さん【活動地域・河辺地域】

こんにちは、河辺の小泉です。私は八多喜町の出身で、香川県の大学に進学し、そこで22年間を過ごしました。

帰省するたびに寂しくなっていく故郷を元気にしたい。という思いで地域おこし協力隊に応募しました。

協力隊として初めての仕事は、「河辺町内全戸訪問」でした。履きつぶした靴は2足。約3カ月をかけて、町内約380戸を公用車と徒歩で訪問しました。それにより自身が町内を知ることができ、さらに町民のみなさんに私のことを知っていただく、またとない機会となりました。



河辺の未来を考える会での活動（グリーンツーリズム）

河辺地域での活動（ミッション）

地域おこし協力隊は、それぞれの地域で活動内容が異なります。私の活動内容は、次の2つです。

①河辺町の地域おこし団体「河辺の未来を考える会」の活動のお手伝いをする。

②町内にある「河辺ふるさと宿」の営業のお手伝いをする。まだまだ、十分なお手伝いはできていませんが、今後しっかりと職務を果たせるように頑張ります。

平成29年4月～現在までの活動内容（活動1年目）

地域おこし協力隊として活動するなかで、心かけた点は「河辺町」や「河辺の未来を考える会」を多くの方々に知っていただくことです。そのために市内やその他の地域で行われるイベントに参加したり、町内で行われるイベントを各報道機関に連絡し、さまざまな取材を行っていたりしました。



消防団秋季訓練



プロジェクト始動

また、国や県が主催する勉強会や研修会に出席し、国内・県内の地域おこしの現状を学んだり、実際に現地を訪問して、さまざまな分野の人と接し、交流を通して多くのことを学んだりしました。

さらに、お祭りや運動会、消防団などの地域活動にも積極的に参加した結果、さらに2足の靴を履きつぶしました。

4月から何も分からない状態ですが、徐々に知識も増え、河辺町について理解を深めることができました。これから活動をしていくなかで自分自身ももっともつとレベルアップし、身につけた知識やみなさんからいただいたアドバイスを形にしていきたいと思えます。

河辺のちびっ子のために勝手にプロジェクト始動

河辺町内に住む子どもたちのために何かしたいと考え、12月から勝手にプロジェクトを始めました。半ば押し売りのような面もありますが、今のところ喜んでいただいていると信じています。

このプロジェクトでは、12月にサンタクロースの変装をして町内のクリスマス会に参加し、ちびっ子たちとゲームをしたり、カレーを食べたりして楽しい時間を過ごしました。



除雪作業中

1月には、河辺の未来を考える会のみなさんと、勉強で分からないところがあれば誰でも参加できる学習補助教室（無料）を開校しました。「良い事だと思ったら、周囲に迷惑のかからない範囲で即行動」の精神で今後も頑張っていきますので、温かく見守ってください。

いのくち 智史さん【活動地域・戒川地区】

こんにちは。地域おこし協力隊の猪口です。長浜の戒川地区にある、「榎谷棚田」というところで主に活動しています。今ではメディアにもよく登場するのでご存知の人も多いと思いますが、最近までほとんど知られていない場所でした。棚田をなんとか後世に残そうと、「榎谷棚田保存会」と協力しながら保全活動に取り組んでいます。

農業の経験はほとんどなく、慣れない作業で毎日大変でした。特に、暑い時期には畝の雑草がぐんぐん伸びるため、刈っても刈っても追いつかないぐらいでした。毎日の作業により草刈りも上達しました。



暑い中草刈り

棚田以外では、戒川地区を少しでも盛り上げるための取り組みも行っています。例えば「戒川夕涼み会」でのライトアップです。戒川夕涼み会は、戒川地区で長年行われている縁日のようなイベントですが、今年度は道を竹灯籠でライトアップしてみました。地元の人や保存会、河辺地区のみなさんと協力して約300個の竹灯籠を作って並べました。実際は思ったほど上手くいかず、いろいろと大変でしたが、地元の人たちからは「きれいだったよ」「良かったよ」などと言ってもらえたので、とても満足しています。



戒川夕涼み会竹灯籠

また、榎谷の伝統「注連縄づくり」にモニターツアーの呼び込みをやってみました。市内の児童と保護者を対象に募集し、神社の大注連縄や家庭用の注連縄をつくる体験してもらいました。さらに竹飯づくり体験や棚田散策なども



榎谷棚田

取り入れ、参加者のみなさんにとっても喜んでいただくことができました。未来を担う子どもたちに伝統を伝え、地域の魅力をたくさん知ってもらいたいと思います。

地域おこし協力隊として、みなさんの期待に沿えるような活動ができていくかどうかは疑問ですが、これからは地域の人たちがもっと元気になれるような活動にも取り組んでいきたいと思っています。また、情報発信にも力を入れていきたいです。現在、保存会では、榎谷棚田の保全に協力していただける人を募集しています。よろしくお願いいたします。



みんなで作った大注連縄



地域の人と注連縄づくり体験

詳細は、榎谷棚田保存会ホームページをご覧ください。

<https://sites.google.com/site/kashidanitanadahozonkai/>

井上 陽祐さん【大洲市インバウンド(外国人旅行者の誘致)担当】

村上長次郎、河内寅次郎、池田貫兵衛、今岡梅太郎、松井國五郎、河野製糸、榎田製糸、程野製糸。これらはすべて50〜150年前にかけて大洲・肱南エリアを中心に、日本のみならず世界で活躍していた大洲出身の豪商や企業です。これらの人や企業が、明治維新後の動乱の日本において、世界を相手に商売をしていました。私は大洲出身者として恥ずかしながら彼らのことを知らずに「大洲は世界も商売も知らない」と思っ外へ飛び出しました。

私は大洲高校を卒業後、福岡や海外の大学を出て、東京の双日株式会社という商社に入りました。



前職の時の写真：本人手前。上司がイギリス人、同期がアメリカ人2人、日本人1人でした。

会社では主に人事部で香港人やマレーシア人、シンガポール人、遠くはナイジェリア人の採用と研修を担当し、世界各国に飛んで行っては現地で採用などの仕事を行っていました。また諸外国の官僚の研修設計や運営も担当していたため、海外の富裕層が何を求めているのか、日本へ何を期待しているのかも、その時学びました。

仕事にやりがいもあり、一度は東京で永住を考えましたが、身内の事情や部署異動など、昨年、将来を考える機会が重なり、大洲に帰ることを決めました。大洲市役所の観光まちづくり課で、過去のキャリアを生かして訪日外国人観光客の受け入れ体制整備を行っています。

大洲に帰って感じたこと

大洲は50〜150年前はかなり世界に精通した地方だったということです。前述のような大洲出身の豪商たちは大洲ならではの製品(木蠟や生糸、木材など)を海外に運んで外貨を稼ぎ、それを大洲に持ち帰って町を潤していました。その名残が臥龍山荘や肱南エリアの多くの町家に残っています。



YATSUGI活動風景：古民家清掃

協力隊としての活動

私がいま取り組んでいるのは、「YATSUGI」という清掃および古民家保全活動です。YATSUGIは、「矢継ぎ早にやる」、「家を継ぐ」という思いが込められています。平成29年5月から活動をスタートさせ、これまで肱南エリアの町家9軒を清掃したり、障子の張り替えを行いました。この活動には、地元の主婦や自営の人、公務員など100人を超えるみなさんにご参加いただきました。そして来年度はYATSUGIの活動の幅を広げることを目的に、NPO法人



YATSUGI活動風景：村上邸前(本人右から4番目)

地域活性化のために

今や、全国の地方自治体に存在する「地域おこし協力隊」ですが、総務省によって制度化されたのは今から9年前になります。平成28年度末には、886団体3,978人の隊員が活動を行っていて、その隊員数は毎年増加しています。

大洲市の地域おこし協力隊3人は、小泉さんと猪口さんが平成29年4月から、井上さんが5月からそれぞれ隊員として地域での活動を行っています。任務は、隊員によって異なりますが、3人とも地域活性化のために、創意工夫して活動に取り組んでいます。

地域活性化を成し遂げるには、隊員が地域住民と共に協力し、活動に取り組むことが重要となります。若い人が集まり活力ある地域にするためには、どうすればいいのか——。隊員の活動は、こうした大洲市の将来を考えるいい機会になると思っています。

私たちの暮らす大洲には、長い歴史のなかで継承されてきた伝統や文化があり、また、山・川・海のような豊かな自然も存在します。今後も、地域おこし協力隊の活動とともに、こうした大洲市の多くの魅力を紹介していきます。

化を目指して準備しています。またこのYATSUGIは現在、大洲に富をもたらした村上家や今岡家の旧本宅など、肱南エリアの空き家の管理と清掃を無償で行うと同時に、活用への道を開く活動も行っています。

その一つが昨年11月25日、26日に行われたイベント「城下のMACHIBITO」です。おはなはん通りや肱南エリアの古民家9軒を借りて行ったアートやクラフト、食や音楽が集うイベントで、県内外のほか、国外からも、計61事業者が参加しイベントを盛り上



町家活用イベント：城下のMACHIBITO

げました。

今後もこのような活動を続け、観光客、特に今増え続けている訪日外国人を受け入れることが出来る事業者の誘致に挑戦して行きます。前職で培った経験をこの大洲で生かし、肱南エリアが再び世界に通じる地域となるよう町家の保存・活用に取り組んでいきたいと思っています。また、過去の大洲の偉人たちが海外の第一線で活躍していたように、この大洲市で外国人を相手にした商売を展開していきたいです。

SNSを活用した情報発信

大洲市地域おこし協力隊では、SNSを活用し、活動内容や地域の情報を発信しています。隊員の活動をぜひご覧いただき、「いいね！」してみてください。



Instagram



Facebook

協力隊募集中

インバウンド受け入れ環境整備や町並みの保全・活用を主な活動として、地域おこし協力隊の募集をしています。担当職員、井上隊員とともに、「ひとづくりからまちづくり、まちづくりから観光ビジネス」をコンセプトに一緒に活動しませんか。(原則、三大都市圏をはじめとする都市地域居住の人が応募対象となります。)

協力隊を導入したい自治会や地域がありましたら、お問い合わせください。

地域活力課 ☎9989